

平成 25 年度医学部看護学科入学者選抜  
(3 年次編入学)

試験問題

総合問題

注意

- 1 問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 2 問題紙は3枚です。指示があつてから確認してください。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 問題紙は持ち帰って下さい。

1 次の文章の（ア）～（キ）に最も適当な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

（ア）とは、生体への感染、化学物質、外傷などの有害な刺激に対する生体防御反応である。（ア）の基本的な4つの症状は発赤、（イ）、（ウ）、（エ）であり、ときとして（オ）も加えて五徴といわれる。

（ア）があると、血液検査では、（カ）数の増加、（キ）の上昇などの所見がみられる。

2 腫瘍に関する次の文章の（ア）～（キ）に最も適当な語句を入れなさい。

顕微鏡的に腫瘍の悪性度を判断する指標として細胞や構造の（ア）がある。悪性の上皮性腫瘍を（イ）、悪性の非上皮性腫瘍を（ウ）とよぶ。悪性腫瘍の最大の特徴は腫瘍細胞がもとの病巣から離れて（エ）することであり、その主たる経路には、血行性、（オ）、（カ）がある。悪性腫瘍の末期では、るいそうや貧血などを伴った状態である（キ）になることが多い。

3 胸部の腫瘍に関する次の文章の（ア）～（オ）に最も適当な語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

肺がんの主な組織型としては、頻度が高く肺末梢側に発生する（ア）がん、喫煙との関連が高い（イ）がん、大細胞がん、予後が最も悪い（ウ）がんがある。肺がんの治療方針は、（ウ）がんと（エ）がんとでは大きく異なっている。石綿との関連性が高い腫瘍として（オ）がある。

4 高齢者虐待に関する次の文章の（ア）～（オ）に最も適当な語句を入れなさい。

厚生労働省の「平成22年度 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律に基づく対応状況等に関する調査結果」によると、養護者による虐待の種別・類型は、（ア）的虐待が最も多く、次いで（イ）的虐待、（ウ）の順に多い。被虐待高齢者の性別は（エ）性のほうが多く、被虐待者からみた虐待者の続柄は、（オ）が最も多い。

5 在宅看護に関する次の文章の（ア）～（ス）に最も適当な数字または語句を入れなさい。ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

介護保険のサービスには、要支援1および2の人を対象とした（ア）給付と、要介護1～5の人を対象とした（イ）給付がある。（イ）給付におけるサービスを大別すると、市町村が指定・監督を行う（ウ）サービス、都道府県が指定・監督を行う（エ）サービス、（オ）サービスなどがある。

平成22年度国民生活基礎調査によると、要介護度別にみた介護が必要となつた主な原因是、要支援者では関節疾患が最も多く、次いで（カ）となっている。要介護者では（キ）が最も多く、次いで（ク）となっている。また、同居家族における主介護者の続柄は、（ケ）が最も多く、次いで（コ）となっている。主介護者の性別では、女性が約（サ）割である。

平成22年介護サービス施設・事業所調査結果によると、介護保険法による訪問看護ステーションの利用者は、年齢階級別では（シ）歳代が41.0%と最も多い。また、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準のランク（ス）以上の利用者においては、要介護5が約半数である。

6 次の文章を読んで、下の問い合わせに答えなさい。

78歳のBさんは80歳の夫と二人暮らしである。Bさんは3年前にアルツハイマー型認知症と診断されており、要介護2で、訪問看護を週2回利用している。改訂長谷川式簡易知能評価スケールは10点。Bさんの夫は自立しており、ほとんどの家事を行っている。Bさんは10年前に糖尿病の診断を受け、朝食前に血糖降下薬を内服している。空腹時血糖値 145mg/dl、HbA1c (NGSP) 値 8.5% であった。

問い合わせ Bさんの血糖コントロールは不良である。推測される要因を5つあげなさい。

7 热傷に関する次の文章の（ア）～（チ）に最も適当な語句を入れなさい。

ただし、同じ記号には同じ語句が入る。

热傷の重症度判定には热傷面積や热傷深度を組み合わせた热傷（ア）が用いられる。热傷面積は（イ）の何%が受傷しているかで表現され、热傷深度はI度からIII度に分類される。热傷深度のI度は（ウ）までの热傷で、外観上（エ）を認める。II度では、热傷は（オ）まで及び、外観上（カ）の形成を認める。III度では、热傷は（オ）全層から（キ）までに及び、外観上（ク）色や黒褐色を呈し、（ケ）神経も損傷されているため（コ）である。また、III度の热傷の治癒時には（サ）を残すことが多い。広範囲なIII度の热傷の治療においては（シ）を要する。

重症热傷では、ショック期、（ス）期、感染期、回復期の経過をたどる。ショック期では、全身の血管の（セ）が亢進し、血漿成分が血管外へ（ソ）しやすい。さらに、创面からの大量の（タ）液のため、（チ）の減少が起こりやすい。そのため、初期の重症热傷患者の看護では尿量の観察が特に重要である。

8 フィジカルアセスメントに関する次の文章の（ア）～（ケ）に最も適当な語句または数字を入れなさい。

意識レベルのアセスメントには、JCS (Japan Coma Scale) と（ア）がある。JCSでは、「刺激をしても覚醒しない、痛み刺激に対し払いのけるような動作をする」場合を（イ）、「刺激すると開眼し、刺激を止めると眠り込む状態、普通の呼びかけで容易に開眼する」場合を（ウ）と判断する。

重篤な意識障害のある場合は疼痛刺激に対する体位の変化を観察する。大脑から間脳が強く障害されると上肢が屈曲内転し、下肢が伸展する（エ）硬直が見られる。障害が間脳から中脳へ進むと、筋トーヌスが（オ）し、上肢の回内伸展と下肢・体幹が伸展する（カ）硬直が見られる。

髄膜炎などで髄膜が刺激された際には、（キ）、吐き気、嘔吐などの症状、（ク）硬直、（ケ）徵候、ブルジンスキ一徵候がみられる。